

震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム
～ 未利用資源有効利用の産学連携拠点の形成 ～
(略称：がれき処理コンソーシアム)

第Ⅰ期 活動報告書について

謹啓 今般の東日本大震災で被災された皆様におかれましては、謹んでお見舞い申し上げます。また、被災された自治体の皆様におかれましても、復旧・復興のため、日々、鋭意ご尽力されていると拝察いたします。

さて、震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム（略称：がれき処理コンソーシアム）は、東日本大震災で発生した夥しい量の震災廃棄物（がれき）を資材化し、有効活用するために必要と思われる技術を、被災地の復旧・復興に役立てて頂くために、産学の連携により2012年6月15日に発足いたしました。

本コンソーシアムでは、設立から2年間となる平成24～25年度において、東日本大震災で発生した膨大な量の震災がれきのうち、特に現地での利用が望まれる①コンクリートがれき、②津波堆積土砂、③がれき焼却灰および④ふるい下残渣、を対象として、これらの有効利用技術に関する技術開発を行い、技術的な側面から被災地の復興に資する情報を整理することを目的と致しました。また、将来的には、ここで開発・事業化された諸技術は、震災復興に役立てるだけでなく、震災の発生以前から東北地方が定常的な課題となっていた建設廃棄物、スラグ、石炭灰、紙パルプ焼却灰、下水汚泥、都市ゴミ焼却灰などの有効利用に対し、これらを未利用資源ととらえ、本コンソーシアムで培った技術を応用し、東北地方における資源循環型社会の構築の拠点形成の足掛かりとすることを目指しております。

岩手県、宮城県におきましては、発災から3年となる平成25年度末をもって、がれきの処理作業が完了するという、大変喜ばしい状況になりました。これに連動し、本コンソーシアムの活動も、関係各位のご支援、ご協力のお蔭をもちまして、この度、活動の第Ⅰ期を終了することとなりましたが、これを機に、コンソーシアムの活動報告を作成いたしましたので、ご案内いたします。本書が、会員企業の皆さまはじめ、各位のお役に立つことができれば、幸甚でございます。

本書の作成にあたりましては、第Ⅰ期の幹事をお努めいただいた、東北大学大学院 風間基樹教授、宮城大学 北辻政文教授（以上、コンソーシアム副代表）をはじめ、株式会社大林組（コンクリートがれき有効利用部会・担当幹事）、住友大阪セメント株式会社（津波堆積土砂有効利用検討部会・担当幹事）、鹿島建設株式会社（がれき焼却残渣有効利用検討部会・担当幹事）、昭和コンクリート株式会社（プレキャストコンクリート製品部会・担当幹事）、JFEスチール株式会社（長期性能評価検討部会・担当幹事）の各位に多大なご尽力を頂きました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

なお、今後は、平成26～27年度を活動の第Ⅱ期と位置付け、がれき処理のほか、除染後の土砂の利活用などについて、強くご要望されている福島県での技術的な支援とともに、東北地方の地場産業が副産している未利用資源を積極的に利活用するための枠組みの構築などに注力していく計画であります。

末筆ではございますが、コンソーシアムのメンバー一同、一日も早い被災地の復旧・復興を心より祈念しております。

謹白

2014年6月

がれき処理コンソーシアム・代表
東北大学大学院工学研究科・教授
久田 真

震災がれきと産業副産物のアロケーション最適化コンソーシアム
～ 未利用資源有効利用の産学連携拠点の形成 ～

第1期 活動報告書

目次

	頁
第1編 コンソーシアムの概要	
概要説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 主旨, 2. 活動目標, 3. 活動期間, 4. 実施体制	
組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
これまでの活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1. 会議等の開催状況, 2. 復旧・復興への支援状況, 3. マスコミ関係の報道状況	
第2編 これまで行ってきたコンソーシアムからの提言	
コンソーシアムからの質問・ご提案事項・・・・・・・・	11
1. 第1回全体会議, 2. 第2回全体会議, 3. 第3回全体会議	
第3編 行政各位からのご意見	
1. 国土交通省 東北地方整備局 河川部・・・・・・・・	15
2. 国土交通省 東北地方整備局 仙台港湾空港技術調査事務所・・・・・・・・	23
3. 宮城県 出納局・・・・・・・・・・・・・・・・	29
第4編 各部会の活動報告	
1. コンクリートがれき有効利用検討部会・・・・・・・・	31
2. 津波堆積土砂有効利用検討部会・・・・・・・・	93
3. がれき焼却残渣有効利用検討部会・・・・・・・・	99
4. プレキャストコンクリート製品検討部会・・・・・・・・	107
5. 長期安定性評価検討部会・・・・・・・・	133
参画企業一覧・・・・・・・・・・・・・・・・	137